

授 業 科目名	【 G 】	体育実技Ⅲ	区 分		開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 1
	【 H 】	体育実技Ⅲ	その他参照			【 H 】 3		【 H 】 1
科目区分	保健体育科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	体育・身体活動・スポーツの恩恵や価値について学び、享受、展開を試みる					担当者	青柳 秀幸	
授業概要	【概要】	2015年11月17日に開催された第38回UNESCO(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: 国連教育科学文化機関)総会において、「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」(International Charter of Physical Education, Physical Activity and Sport)が約20年ぶりに改訂・刷新された。 この国際憲章には、「体育・身体活動・スポーツは、健康、社会的・経済的発展、若者のエンパワメント、和解、平和など、さまざまな個人的及び社会的恩恵をもたらすこと」、「質の高い体育・身体活動・スポーツの提供は、フェアプレー、平等、誠実、卓越、責任、勇気、チームワーク、規則や法律の順守、自身や他者に対する尊重、共同体意識、連帯並びに楽しさや喜びなどの価値を促進するために要する潜在的な能力を発揮するために欠かせない」などと記されている。 本講義では、受講者自身のこれまでの体育・スポーツ観や指導観を振り返りつつ、上述の恩恵や価値について実技の実践を通じて学び、享受、展開を試みる。						
	【到達目標】	・「競技」や「勝敗」とは異なる、時にはそれらを超える「体育・身体活動・スポーツの恩恵や価値」の存在について理解している ・アスリートとしてスポーツに長く関わっている／いた受講者らの属性を活かし、人々がスポーツに気軽に・楽しく触れるためのアプローチ方法を、活動内容の選択・立案、ルールの工夫・緩和、チームワークの観点から模索・検討し、実践することができる ・自身と他者の身体やスポーツ観の違いを理解した上で、自身や他者が「体育・身体活動・スポーツの恩恵や価値」を享受するために必要と考えられる事柄について、経験に基づきながら自身の言葉で表現することができる						
履修条件	・スポーツ法コースの学生であること ・他者の学びの時間・環境を尊重すること ・スポーツウェア、室内シューズ、タオルを持参すること							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【○】	PBL	【○】	実践・実技
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ （当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		◎ （よく当てはまる）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		－ （当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		◎ （よく当てはまる）					
他科目との 関連性	・「現代社会とスポーツ」で学んだ人文社会学的な観点や知見を活用する							
教科書	特になし							
参考書	日本学術会議, 健康・生活科学委員会, 健康・スポーツ科学分科会 (2017) 記録：ユネスコ「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」の監訳及びシンポジウムの開催. https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/2-20170922.pdf (2025年3月1日時点)							
評価方法	①授業時に課す課題・レポート(50%)、②学習意欲・態度・協調性(50%)の2つの観点から総合的に評価する。							
フィードバック 方法	・受講者が共有できる形で授業中に直接フィードバックする ・評価基準に則ってレポートを評価し、適宜返却・フィードバックする ・レポートの内容の一部を授業で紹介し、教員が講評する							
評価基準	授業課題およびレポートに的確に応え、主体的かつ意欲的に実技を実践できた者はその程度に応じて「S」または「A」、授業内容を理解し実技を実践できた者はその程度に応じて「B」または「C」とする。授業内容の理解や実技の実践が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、出席要件を満たさない場合や最低限の評価に必要な課題の未提出など、評価不能な場合は「F」とする。 ※運動技能の優劣、得意・不得意は問わない。							

授 業	【 G 】	体育実技Ⅲ	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 1
科目名	【 H 】	体育実技Ⅲ	その他参照		【 H 】 3		【 H 】 1
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス：授業の目的、内容、評価方法の確認。教員・受講者との交流を通じて、自身のスポーツ観の相対化を試みる						
	予習：	これまでの体育・スポーツ観や指導観を振り返る。		復習：	「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」を読む		
2	運動遊び(1)体験編 ～鬼ごっこ系、日本スポーツ協会：遊びプログラムを中心に～						
	予習：	日本スポーツ協会の理念や各種事業について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
3	運動遊び(2)アプローチ方法の検討、実践編 ～日本スポーツ協会：遊びプログラムを中心に～						
	予習：	日本スポーツ協会のAGP、各種指導者研修について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
4	運動遊び(3)アプローチ方法の検討、実践編 ～スポーツ庁：小学校体育（運動領域）指導の手引を中心に～						
	予習：	スポーツ庁の理念や各種事業について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
5	体ほぐしの運動、体の動きを高める運動(1)体験編 ～用具活用の観点から～						
	予習：	小学校学習指導要領解説：体育編を読む		復習：	レポートの作成、提出		
6	体ほぐしの運動、体の動きを高める運動(2)体験編 ～用具未使用の観点から～						
	予習：	中学校学習指導要領解説：保健体育編を読む		復習：	レポートの作成、提出		
7	ネット型(1)基礎、ルール緩和編						
	予習：	ネット型ゲームの特徴について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
8	ネット型(2)ルール緩和、応用編						
	予習：	オリンピック競技・種目とは異なるネット型ゲームについて調べる		復習：	レポートの作成、提出		
9	ネット型(3)アプローチ方法の検討、実践編						
	予習：	諸外国におけるネット型ゲームの展開方法について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
10	ゴール型(1)基礎、ルール緩和編						
	予習：	ゴール型ゲームの特徴について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
11	ゴール型(2)ルール緩和、応用編						
	予習：	オリンピック競技・種目とは異なるゴール型ゲームについて調べる		復習：	レポートの作成、提出		
12	ゴール型(3)アプローチ方法の検討、実践編						
	予習：	諸外国におけるゴール型ゲームの展開方法について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
13	諸外国における体育・身体活動・スポーツの実践例						
	予習：	諸外国における体育・身体活動・スポーツの実践例について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
14	ミニスポーツ祭(1)アプローチ方法の検討、準備編						
	予習：	日本の学校教育における「運動会」の功罪について調べる		復習：	レポートの作成、提出		
15	ミニスポーツ祭(2)実践編。授業全体のまとめ						
	予習：	受講前との思考の変化の有無、視野や観点の拡がりの有無を考える		復習：	レポートの作成、提出		
その他	予習および復習は、それぞれ90分程度を目安にしてください。それらの学びと授業時間内での学びを総合することで、到達目標の達成が見込めます。 授業では、スポーツパーソンシップを意識した積極的な参加・発言・協調を歓迎します。 ※G・Hカリ:法【履修不可】 スポ【必修】 情【履修不可】						